

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部臨床工学科
名前 中村 実
更新日 2024年2月26日

【更新目的】

新カリキュラムの導入や自身の知識向上から現在の学生の特性に合わせた更新の必要が考えられた。

【責任】 保健医療学部 臨床工学科に所属し、専門科目である生体機能代行装置学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は臨床工学関連科目（生体機能代行装置学・医療工学・医用治療機器学）や学内実習・OSCEなどの担当し、大学院生ならびにゼミ生の研究指導を行っている。

【理念】 学生には『社会や組織の中で信頼』され、『医療従事者として社会貢献』する『スペシャリスト』になって欲しい。

医療現場は、医師をはじめ様々なコメディカルとのチームで成り立っていることから、医療従事者としての信頼性が要求される。また、日々進化するテクノロジーが社会や現場にフィードバックされる中、新しい知識とスキルをアップデートするため、常に学び続けなければならない。さらに、自分の興味を持った分野で探求力と分析力を向上することで、その分野でのスペシャリストとして成長することで、本国のみならず海外でも必要とされる存在となると考える。

活動の規模は、所属校での個人教育改善に留まらず、『関連学会や職能団体と連携』して重宝される人材を育成する存在になりたい。

【方針・方法】 上記の理念を実現するために所属校では、『社会人としての教育』、『医療従事者としての知識の習得』、『学生からフィードバックを得る』という方針で教育を行っている。また、現場や社会が求める知識とスキルを持ち合わせた人材を育成するために『外部機関との連携』を行うという方針で活動している。

『社会人としての教育』

・授業（OSCE）では、社会人としてのルールやビジネスマナーを習得する機会を設けている。具体的には、各場面における接遇や対応をシミュレートし、振り返りや改善点を考え発表したりする授業をファシリテートしている。

・コミュニケーション能力の向上には、授業の中で学術的な課題をグループで取り組み、その成果をプレゼンテーションさせ、ディスカッションする機会を提供する。その中で質疑応答を行い、コミュニケーション能力の向上を図る。

・学生と自分とのコミュニケーションを向上させるため、授業では専門知識意外にも実務経験談を積極的に伝えている。

『医療従事者としての知識の習得』

・専門科目では、工学および医学の知識の蓄積が必要となるので、重要なポイントの明示や動画を含めた授業資料の充実、グループワークによる学習など変化のある授業実践をう。

- ・最新の医療技術ならびに新カリキュラムで新たに導入された内容についても授業内で詳しく触れ、卒後の将来像の構築につなげる機会を作る。
- ・関連学会の資格試験合格ならびに国家資格取得のために過去問題を中心とした特別講習会を実施した。
- ・国内での臨床実習のみならず、海外研修もしくは海外現地と遠隔システムを活用した配信を実施する。このことから、東南アジアにおける医療現場の現状を体験および把握することで新たな課題を見つけ出す。

『学生からフィードバックを得る』

- ・学生の理解度を調査するため、授業の中盤と終了時に Google Forms を使用してアンケートを実施している。
- ・ゼミでは毎週 Progress を行い、研究活動の進捗と質疑応答を行なった。

『外部機関との連携』

- ・社会や現場では、どのような人材が必要なのかを各関連学会や職能団体と連携し、現場のニーズ等を含めた情報交換する。
- ・セミナーや全国規模の学術集会で、学生セッションまたは一般演題にて研究発表を行う。

【成果・評価】

- ・授業改善のためのアンケートを基に、学生の満足度を確認し、授業方法の改善を検討した。
- ・休暇期間にも関わらず特別講習会のアンケート結果は、理解度および満足度は高かった。
- ・関連学会において、Best Presentation Award にノミネートし最優秀賞および優秀賞を獲得した。また、優秀演題に送られるトラベルグラントも獲得した。

【目標】

- ・医療現場で重宝される臨床工学技士を育成したい。
- ・関連学会の資格試験合格ならびに国家資格取得のための講習会ではなく専門科目内でも実施したい。
- ・実習科目での実技試験等は、録画動画した動画を使用し対象者本人がリフレクションを行えるようにしたい。
- ・海外研修および遠隔システムを通して、臨床工学技士としての今後の課題と可能性を体験させたい。
- ・国家試験取得者のみならず一般企業へ就職を希望する学生への教育体制を構築したい。